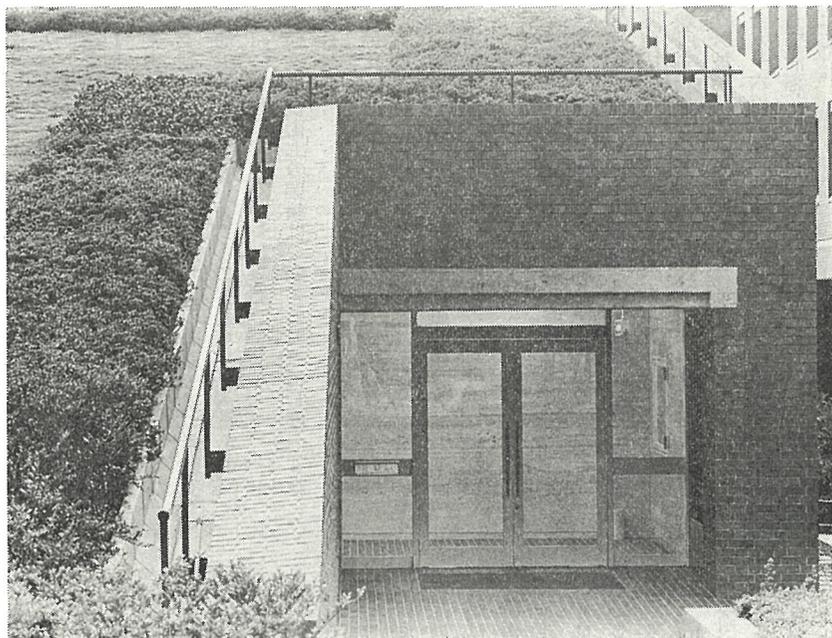


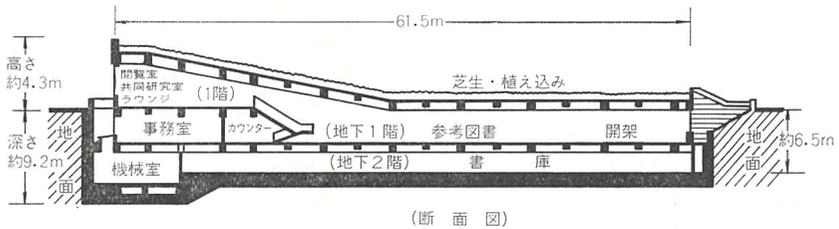
女子大学図書館



図書館入口

去る九月六日に新図書館の献堂式が行われたが、あの位置に用地を決めるまでには長い論議があった。ジェームス館の改築やジェームス館前の芝生の利用が提案されたが、栄光館、静和館と並ぶ赤煉瓦建三棟の西一棟を失うのは美観上残念だし、デントン先生の遺徳を讃えて作られた芝生を失うのもまた耐えがたい。こう考えた時に設計者から芝生の地下に作ってはどうかとの提案があって、それに一決した。新館建築の必要が叫ばれてから十年、多数の人々による審議をへて地下建設案に落ち着くまでには設計図は六度書き改められた。設計者は図書館建築で有名な鬼頭 梓氏、施工者は竹中工務店で、昨年八月一日に起工、予定通り満一年で七月三十一日に完工した。

地下二階は書庫と機械室、地下一階には閲覧室、事務室、カード目録、開架書架、オーディオ席、マイクローリーダ席があり、ゼロックス複写機も置かれている。地上階には四つの共同研究室とラウンジ、閲覧席がある。閲覧席は計二九〇席。数カ所にわかれ、机のタイプも違うので各人好みの席が選べよう。床面積は計二、九五九平



(断面図)

方米である。昭和三十年デントン館に開設された図書室は二五〇平方米、その後二十二年間に拡張を重ね、移転直前には八〇〇平方米であった。新書庫は、今後二十年間の図書の増加分を収納できるように設計されている。

地下の建造物ではあり、特に書庫が地下二階にあるので空調装置を備えている。なお、停電に備えて、自動的に作動するディゼル発電機もあり、これら機械設備が二〇四平方米を占める。館内放送や図書運搬用リフト設備はもちろんだが、身体障害者の傾斜道やトイレも設けられている。

女子部百年の記念すべき年にこの新館が開かれたのは、意義深いと思う。新しい試みとして開架方式をとり、まず二万余冊（避からず四万冊にしたい）をそこに並べた。従来から開架されていた参考図書は一層充実させた。

本図書館蔵書の近年の年間平均増加数は四、五〇冊であるが、総数が十一万冊だからまだ不足、不備も多い。基本方針としては、人類遺産の全分野にわたって基本的な良書を備え、どんな質問にも応じられる

一応の情報源をそろえたいと思っている。

又、「参考図書」や「参考図書に関する総合目録」を優先的にそろえて、本学に所蔵せぬ本でも利用できるように、情報提供の便を持ちたいと考えている。本来「図書」なるものは、保存の場所、整理のための時間と努力、保管、利用のために莫大な経費を要する。又、内容の優劣に關せず、図書管理の経費は同様である。従って購入図書の選択については慎重な考慮を要するのは言うまでもない。

図書館の屋上は、地面よりは一米近く高いが、芝生が張られ、しだれ桜やさるすべりなど三十種近い植物が植えられて、新しい庭園になった。この新館や庭園は、古い建物とよく調和して、見る人の眼をたのませてくれる。

学外から、この地下の美しく且つ快適な図書館を見学に来る人は多いが、いよいよこの建物が、今後女子大学の研究と教育の中心となることを心から祈ってやまない。

(深田尚彦・女子大学図書館長)